



一回目は美星町、第二回目は石垣島で行われた。「星の郷美星町民」としての一人ひとりの町に対する想いが薄れてきたという問題が見えた。父は言う。外の状況を学び、今ある資源や文化を見つめ直すことで、方向性が定まり、新たな活動へと繋げていけるのだと思う。その結果として地域が活性化し、歴史や文化が次の世代へ継承できるのだと考える。

美星町は全国に先駆けて光害によって星の美しさを失わないよう、「<sup>①</sup>美星町光害防止条例」を1989年11月22日に制定した。光害防止条例とは、生活に必要な照明を確保しながら光の害から星空を守ることを目的としている。

都市部では、たしかに在るはずの星が、見えないことが普通になっている。都市部の子供達はこんなに美しい星を見ることなく大人になるのかもしれない。満点の星空の感動を味わえないなんて、もったいない。世界的にみると、夜の安全を守るという照明の本来の目的を超え、世界の様々な場所で過剰な照明が

自然環境に悪影響を及ぼしている現状もある。  
明るい夜空が、生物の生活リズムを乱したり、  
天体観測に障害を及ぼしたり、過剰なエネルギー  
ギー使用などの問題がある。ヒトの経済活動  
は生活圏外の空にまで進出してきたている。照  
明は、暮らしに大きな利点をもたらしている  
存在であることは間違いない。しかし、バブ  
ル景気に日本が沸く1989年にこの条例が作られ  
たからこそ、美しい星が守られてきたのでは  
ないだろうか。  
「ゆい美星」が開催しているイベントのな  
かに、「ナイトウォーク」がある。それは、  
夜に美星町の星空を見ながら、ゴールの星空  
公園を目指して歩くイベントである。9kmのコ  
ースを中継地点で配られる美星の特産物を食  
べながら歩き、星の専門家から星座などの説  
明もある。美しい星を見ながら特産物を味わ  
い、気軽に遊び感覚で自然に触れ、満天の星  
空、自然の大切さ、自然との共生を肌で感じ  
られるイベントだと思う。このような星を資

源としたイベントをたくさん開催すること、  
町の活性化にも一役買っている。  
これからの社会を考える上で、未来を創る  
私達が、自分の町が好きだと思えるか、町を  
ずっと持続させていきたいと思えるかが大切  
である。地元に住む私達には、星空や自然を  
今よりもっと大切にしなければいけないとい  
う意識を高め、現状をもっと知ろうとするこ  
とが大切だと思う。そのためには、地域の行  
事に積極的に参加し、そこで奮闘する大人と  
関わり、自分の考えを作り上げることが不可  
欠である。今の私にできることは、美星町の  
良さを感じられるイベントに参加し、美星で  
生まれ育った私の感じた意見を企画側に伝え  
ることだと思う。また、他に先駆け「光害防  
止条例」を制定した美星町が先頭にたち、星  
や自然を守るために行っている活動を世界中  
に伝え、次世代の自然を守る一歩になればよ  
いのではないだろうか。  
世界に広く知ってもらうには、世界中の人

が参加できる「美星町自然環境体験ツアー」  
を企画することが考えられる。そのような地道な活動を継続できれば、ほんの少しでも、次世代の自然を守ることに役立てると信じている。そのツアーに小中高生が参加し、世代間国際交流も深めていけばさらに効果的になるのではないだろうか。私は高校卒業後、観光について学びたいと思っている。そこで、どのようにしたら町が活性化できるか、イベントの参加者を増やせるかなどを考え、美星町の未来に役立てていきたいと考えている。今は、大きなプロジェクトを企画することはできなくても、美星町のことをもっと深く勉強し、イベントに沢山参加してみることから始めていこうと思っている。私達高校生が、自分の町とこれからの世界を引っ張っていかなければならない。そのために原点に戻り、もう一度自然の美しさを感じ、町づくりに活かすことが大切だと思う。

私は美星町という自分の町が大好きだ。外

に出れば涼しい風と鮮やかな緑、夜になれば  
美しい星空。みんなで守ってきたものだから  
こそ、美しさが増すのかもしれない。だから  
自信をもって美星町民は、「美星町は素晴ら  
しい町だ」と言うことができるのだ。そして  
たとえ小さな町だとしても、美星町にしか  
ない大きな発信ができる。小さな町が先頭にた  
ち、世界に自然の美しさを発信していくこと  
が、持続可能な社会への一歩だと私は考える。

出典① 美しい星空を守る井原市光害防止条

例

平成16年12月17日条例第56号